

[ピラミッドからの話題提供]

## ハイコープ種豚の輸送防疫体制

二階堂 聡

(全農畜産サービス株式会社 〒135-0041 東京都江東区冬木 11-17 イシマビル)

Nikaido, S. (2021): The Transportation Regulations for Zen-Noh GGP・GP Farms

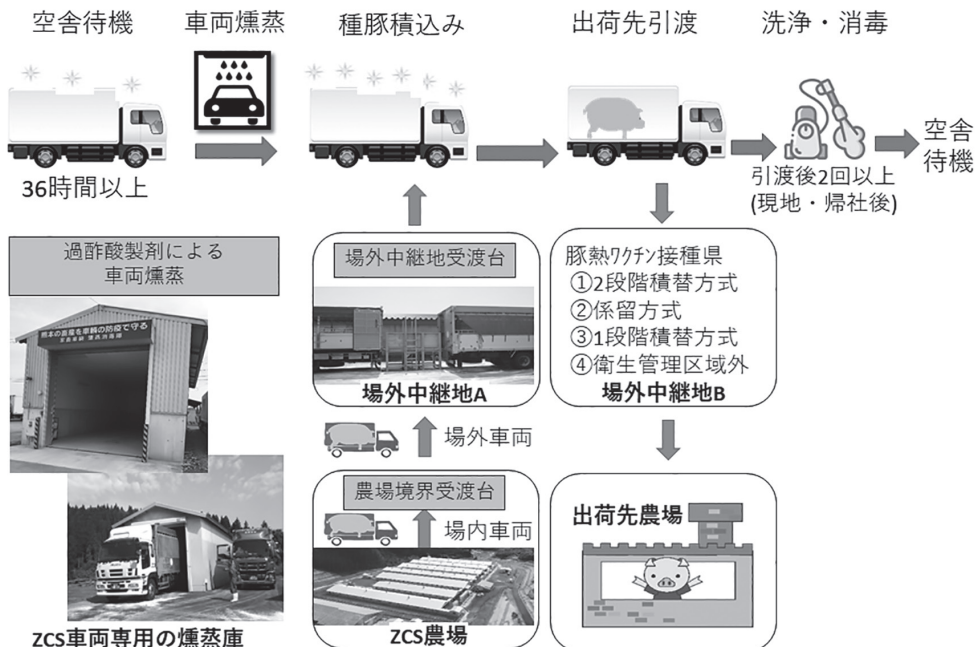
All about SWINE 59, 48-49

弊社は岩手県の東日本原種豚場、秋田県の由利本荘 SPF 豚センターおよび秋田大仙 SPF 豚センター、岡山県の岡山 AI センター、熊本県の西日本原種豚場の 5 箇所の直営 GGP・GP 農場を運営しており、これら拠点で生産された種豚および精

液を全国の生産者に供給しています。

種豚輸送については、種豚輸送を委託している運送会社の運転手と輸送車両を対象として、運送会社からの出庫から、それぞれの場外中継地での種豚積み込み、出荷先農場での種豚積み下ろしお

### 種豚の多段階輸送



よび運送会社への入庫までの全工程にわたって、行政、関係機関と確認のもと防疫ルールを定めています。

まず、種豚場内では豚舎出荷口から場内出荷台まで農場内車両で輸送し（第1段）、次に別の車両で場外中継地の出荷台に搬出します（第2段）。一方、種豚輸送車両は車両燻蒸施設（図左下）にて過酢酸製剤（商品名：ビネパワー）5,000ppmで全体を燻蒸消毒した後、各農場が管理する場外中継地で種豚を積み込みます。

過酢酸製剤は有機物環境下でも強い殺菌力を発揮し、温度の影響を受けづらいため厳冬期でも十分な効果が期待できます。これまで、SPF豚関係の物品の燻蒸消毒については、ホルマリンを常用していましたが、作業者に対してより安全な製剤を使用すべきということで、過酢酸製剤が普及しています。とくに、弊社では食品添加物として市販されている過酢酸製剤を使用しております。

豚熱ワクチン接種農場で種豚を積み下ろす際、

積み下ろし作業（輸送車両運転手）は出荷先農場近隣で持参した使い捨て手袋、シューズカバーやつなぎ服を着用し、使用したこれら着衣やオガ粉は持ち帰らずに、その場もしくは帰路にて処分しています。

車両の空車期間（輸送終了後帰社し、車両を洗浄・消毒後車庫に入庫してから、次回出荷のため出庫するまでの期間）は、と畜場・レンダリング施設に立ち寄った際が60時間以上、養豚関連施設（一般養豚場、SPF豚農場、堆肥処理施設および家畜市場等）に立ち寄った際は36時間以上設けています。また、車両運転手は空車期間と同じ期間、豚輸送作業等養豚関連の作業に従事しません。

豚熱に加えて、ASFや口蹄疫といった重大疾病のリスクもある昨今、弊社は、上記ルールに準じた多段階輸送を行い、種豚輸送に起因する疾病感染リスクを可能な限り排除し、安全な輸送に配慮してまいります。